

本時の授業のポイント

基礎学力の定着を図るための個に応じた授業づくりをする。

- (1) 主体的な学習活動を促すために弾力的な1単位時間の運用を図り、100分授業を工夫する。
- (2) 教科における基礎的・基本的な内容の定着を図るために、アドバイス学習を組み入れる。
- (3) 自己・相互評価能力の育成を図るための補助カードや学習ノートを工夫する。
- (4) 心と体を一体ととらえるために、「体づくり運動」の考え方を組み入れる。

保健体育科学習指導案

期 日 平成〇〇年〇月〇日（金）1・2校時
対 象 3年〇・〇組 計39名（男32名 女子7名）
場 所 〇〇中学校 武道館
指 導 者 教 諭 松 本 眞 一

1 単元 武道（柔道）

2 単元の特性

(1) 一般的特性

- ① 我が国の伝統的な武技の一つである柔術を、教育的目的で体育の原理を生かしながら集大成されたものであり、身体や精神を鍛錬修養し、自己を完成させ、社会に役立つ人間を育成することを目的としたスポーツである。
- ② 稽古の積み重ねを通して、瞬発力、持久力、調整力（巧み性、敏捷性、平衡性）などを養うことができ、さらに相手との格闘的な対応の中で旺盛な気力、礼儀、克己、公正、遵法などの態度を養うことができるスポーツである。
- ③ 技能に関する内容は、基本動作、対人的技能、試合で構成される。基本動作は、体さばき、崩し、受け身などからなる。対人的技能は、投げ技と固め技からなり、試合では、学習した技能を発揮し、確かめ、勝敗を競うスポーツである。
- ④ 柔道衣を着用し、素手で相対する二人が組み合って互いに攻防し合い、相手との関係で技能が成り立っている格闘形式の対人的スポーツである。また、相手の動きを利用しながら、投げたり抑え込んだりすることによって楽しさや喜びを味わうことのできるスポーツである。
- ⑤ 互いの激しい闘志を適切に抑制しながら、相手を尊重し、公正な態度で勝敗を争う行動が要求される。したがって、単に技能の競い合いによる勝利の喜びを求めるだけでなく、伝統的な行動の仕方を身に付けるスポーツである。また、危険を伴うため、安全面に配慮する態度が要求されるスポーツである。

(2) 生徒の側から見た特性

- ① 授業では、新しい技を覚えて相手を投げ、抑え込み、試合に勝つことができたり、練習したことができるようになったりしたときに、楽しさや喜びを感じている。
- ② 崩しや体さばきなどの基本動作をしっかりとできるようになり、投げ技や固め技の技能を身に付けたいと感じている。
- ③ 技の練習をしても上手にならなくて試合に負けたり、負けたことを指摘されたりしたときに、おもしろくないと感じている。

3 単元の意義

- (1) 柔道の学習を通して、柔道の特性にふれ、楽しさや喜びを味わい、より好きにさせることで生涯にわたって柔道やその他の運動に親しむことができる。
- (2) 相手の動きや「技」に対して攻防する仕方を習得したり、連絡変化を身に付けたりして、競い合う中に柔道の楽しさや喜びを味わうことができる。
- (3) 自己の技能の程度に応じた課題を設定し、課題解決のための練習を主体的・計画的に実践していくことにより、課題解決の能力を高めていくことができる。
- (4) 試合や練習を通して、瞬発力、持久力、調整力などの総合的な体力、旺盛な気力、礼法を養うことができる。
- (5) グループやペアで学習を進めることにより、自己の役割を自覚し、責任を果たしながら、互いに協力して計画的に練習や試合をすることができる。同時に望ましい人間関係を形成することができ、主体的に運動に取り組む態度を育成することができる。

4 生徒の実態及び考察

(1) アンケート結果 回答数：男子32名 女子7名 計39名

【興味・関心について】

① あなたは、柔道が好きですか。

ア 好き(17) イ どちらでもない(22) ウ 嫌い(0)

② 柔道の学習で「楽しい」とか「うれしい」と感じるときはどんなときですか。(複数回答可)

ア 試合で勝つことができたとき(25) イ 相手を固め技で抑えたとき(18)
ウ 相手を投げることができたとき(22) エ 練習したことができるようになったとき(25)
オ 仲間と協力して練習ができたとき(15) カ 新しい技を覚えることができたとき(21)
キ きれいに受け身をとれたとき(6) ク 礼儀作法を身に付けることができたとき(2)
ケ その他(できるようになったことが、ずっと身に付いているとき) 1)

③ 柔道の学習で「嫌だな」「したくないな」と感じるときはどんなときですか。(複数回答可)

ア 試合で負けたとき(12) イ 技の練習をしても上手にならないとき(24)
ウ 負けたことを指摘されたとき(13) エ 相手に投げられたとき(6)
オ 相手に固め技で抑えられたとき(10) カ 相手と協力して練習できないとき(9)
キ きれいに受け身がとれなかったとき(5)
ク その他(技のやり方がわかりにくいとき 1, 試合のとき 1, 特になし 1)

【欲求・願望について】

④ 柔道の学習でどのようなことを身につけたいですか。(複数回答可)

ア 受け身の技能(12) イ 崩しの技能(27) ウ 体さばきの技能(15)
エ 投げ技の技能(37) オ 固め技の技能(22) カ 連絡変化の技能(10)
キ ルールや審判法(6) ク 礼儀作法(5)
ケ その他(絞め技) 1)

【学習経験・技能について】

⑤ 柔道の経験は、いつからですか。授業を含めて教えてください。

ア 幼稚園から(0) イ 小学校から(0) ウ 中学校から(39)

⑥ 今までの柔道の学習でどのようなことが身に付いていると思いますか。(複数回答可)

ア 受け身の技能(31) イ 崩しの技能(3) ウ 体さばきの技能(3)
エ 投げ技の技能(9) オ 固め技の技能(20) カ 連絡変化の技能(2)
キ ルールや審判法(2) ク 礼儀作法(13)
ケ その他(相手が次にどう動くか考えること) 1)

【マナー・安全面について】

⑦ 柔道の学習をする上で、マナーや安全面に対してどんなことを心掛けていますか。

(複数回答可)

ア 負けた人を責めたりしない(22) イ 審判の判定には素直に従う(21)
ウ 自由練習(乱取り)のときは真剣に取り組む(24)
エ 礼法をきちんとするように心掛ける(24)
オ ねんぎをしないように、畳やマットの点検をする(8)
カ つめはきちんと切っておく(14) キ 窓を開け、空気の入換えをする(7)

【知識・理解について】

⑧ 礼法、ルールや審判法を知っていますか。(複数回答可)

ア 投げ技の一本の判定基準(16) イ 投げ技の技ありの判定基準(7) ウ 投げ技の有効の判定基準(4)
エ 固め技の1本の判定基準(8) オ 固め技の技ありの判定基準(6) カ 固め技の有効の判定基準(5)
キ 審判の合図の仕方(1) ク 座礼の仕方(17) ケ 立礼の仕方(9)
コ 試合を始める時の礼法(11) サ その他(特になし) 8)

(2) 考察

アンケート結果をみると、柔道について好きでも嫌いでもない生徒が過半数以上(22名)いる。これは、1年生で主に受け身や崩し、体さばきなどの基本動作や固め技、2年生で固め技や投げ技の基本的な技の習得を中心に行ったため、相手との攻防の中で投げたり、抑え込んだりという柔道の持つ格闘的な特性をやや味わうことができなかったからだと考えられる。そして、技の練習をしても上手にならないときに「嫌だな」、「したくないな」と感じる生徒が24名と多いことから、柔道の技は難しく、練習しても技能の向上につながらないと感じているためとも考えられる。

また、投げ技の技能が身に付いていると感じている生徒は9名で少なく、投げ技の技能を身に付けたいと考えている生徒は37名、崩しの技能を身に付けたいと考えている生徒は27名でとても多い。このこ

とから、3年生の学習段階における学習Ⅱの前半で、既習技の復習をする時間を設定して、これまで学習した技を再確認し、身に付けさせながら、新しい投げ技も学習させ、積極的に個に応じた指導を進めていきたい。

次に、技の練習をしても上手にならないときに「嫌だな」、「したくないな」と感じている生徒が24名と最も多いことから、技能を高めることができるように、運動する人の動きをパートナーが観察して技能の程度やその問題点を把握して、教え合い学び合えるような学習活動（アドバイス学習）を組み入れていきたい。また、技能の定着が不十分な生徒には、師範や学習資料、模範になるビデオを活用させながら、技能のポイントを押さえ、積極的に個に応じた指導を進めていきたい。

学習Ⅱの後半では、柔道の基本原則と崩しや体さばき、学習して学んだ投げ技を生かして、自分に合った新しい技（連絡変化）を主体的につくらせたい。この自分に合った技をアドバイス学習を通して、積極的に考えさせることで、技能向上に関する試行錯誤の能力（思考・判断）を身に付けさせたい。また、学習Ⅲでは、中学校における柔道学習のまとめとして、柔道大会（団体戦）を開催し、柔道の特性に存分にふれさせていきたい。

5 単元のねらい

- (1) 柔道の特性にふれる楽しさや喜びを味わうことができるようにする。また、グループにおける自己の役割を自覚し、責任を果たしながら互いに協力して意欲的に練習や試合に参加できるようにするとともに、勝敗やルールに対しては公正な態度がとれるようにする。
さらに、自分の身体の調子や練習場の安全を確かめ、健康・安全に留意して練習や試合ができるようにする。
(関心・意欲・態度)
- (2) 自己の能力に応じた課題を設定し、その課題を追求する過程を工夫することができるようにする。
(思考・判断)
- (3) 自己の技能の程度に応じて課題を設定したり、課題解決の方法を工夫したりして技能の向上を図り、相手の動きに対応した攻防を展開して、練習や試合ができるようにする。
(技能)
- (4) 柔道の歴史や特性、ルールや審判法、技能などの基礎的な知識を理解できるようにする。
(知識・理解)

6 学習指導上の方針

- (1) 教科における基礎的・基本的な内容の定着を図るための指導計画と評価規準表の作成をする。
 - ① 目標規準を明確にするために、3年間を見通した各学年の目標規準表の作成と各学年の学習のねらいに応じた評価規準表を作成する。
 - ② 教科における基礎的・基本的な内容の定着を図るために、基礎的・基本的な内容とその定着のための手立てを明確にした指導計画を作成する。
- (2) 弾力的な1単位時間の運用を図る。
 - ① 運動の特性により深くふれ、ゆとりを持って課題解決に取り組めるようにするために、100分で授業を構成する。
- (3) 100分授業の学習過程を工夫する。
 - ① 教科における基礎的・基本的な内容の定着を図り、望ましい人間関係を形成させるために、教え合い学び合う学習（アドバイス学習）に取り組ませる。
 - ② 自己・相互評価能力を育成する。
 - ・ 自己評価能力を高めるために、補助カードを活用して技能のポイントを理解し、うまくできているか振り返らせる。
 - ・ 相互評価能力を高めるために、お互いの技能面の良いところ・改善点を教え合い学び合うアドバイス学習に取り組ませる。
 - ・ 相互評価能力を高めるために、お互いに向上したところ（情意面・技能面等）を出し合い、最優秀選手を選出させる。
 - ③ 運動量の多い学習活動（自由練習等）の後に、集中力や意欲を高めるために休息を組み入れる。
- (4) 体づくり運動を学習活動に組み入れる。
 - ① 導入の段階で、体の調子を整えたり体力を高めるための体づくり運動を組み入れたり、基本動作の向上を図ったりしながら、徐々に主運動に近づける。
- (5) 課題の持たせ方・解決の方法の工夫をする。
 - ① 技能のポイントの自己理解と、パートナーが運動する人へのアドバイスのポイントを理解できるように、補助カードに技能のポイントを記入させる。
 - ② 技能のポイントとパートナーのアドバイスのポイントが的確に理解でき、主体的に学習活動が進められるように、学習資料・教具（技のVTR、足型など）を活用させる。

7 指導計画

時数	学習段階	ね ら い	基礎的・基本的な内容			定着のための手立て
			学び方の内容	技能の内容	態度の内容	
1・2	オリエンテーション	○ 柔道の特性を知ることができる。 ○ 学習の進め方について理解し、学習の見通しを持つことができる。	・柔道の歴史や理念、特性や意義を理解し、主体的に学習を進めることができる。 ・50分授業と100分授業の学習の流れを理解することができる。		・積極的に学ぼうとする態度を身に付けることができる。 ・安全面に留意して運動する態度を身に付けることができる。	・特性や意義を理解させるために学習資料を活用させる。
	学習 I	○ 自己の技能の程度を知り、能力に応じた目標を立てることができる。 ○ 体づくり運動の意義やねらい、基本動作、主運動との関連を理解し、行うことができる。	・学習資料や他(教師、生徒)の意見等を参考にして、能力に応じた目標を立てることができる。	・レディネステストをし、自己の能力を理解することができる。(基本動作・対人的技能) ・基本動作と対人的技能の関連を理解し、基本動作を身に付ける。	・相手を尊重する態度(礼法)を身に付けることができる。 ・安全面を配慮し、禁じ手を用いない態度を身に付けることができる。	・学習ノートの活用法について理解させる。 ・学習資料や教具の活用の仕方について理解させる。 ・技のVTRの活用法について理解させる。 ・アドバイス学習の『学び方』について理解させる。 ・学習の進め方について理解させる。
3 4・5 6 7・8 9 ⑩・⑪ 12 13・14	学習 II	○ 柔道の基本原理を理解して、既習技を復習し、新しい投げ技を身に付け、約束練習や自由練習を楽しむことができる。	・基本動作と対人的技能の関連を理解し、柔道の基本原理を生かすことができる。	・既習技を復習し、確実に身に付けることができる。 ・新しい技を身に付けることができる。 大内刈り 払い腰	・相手を尊重する態度(礼法)を身に付けることができる。 ・約束事項を厳守する公正な態度を身に付けることができる。	・主体的に学習を進めることができるようにするために、学習資料や教具を準備する。 ・正しい動きを体得させたり、正しい動きをイメージさせたりするために、教具を活用させる。
		○ 柔道の基本原理を理解して、固め技の連絡変化を身に付け、約束練習や自由練習を楽しむことができる。	・新しい技を身に付けるために、学習資料や教具を活用することができる。	・固め技の連絡変化を身に付けることができる。 横四方固め ↔ 崩れけさ固め 上四方固め ↔ 横四方固め	・粘り強く練習に取り組む態度を身に付けることができる。	・克己心を持って反復し、かかり練習や約束練習ができるように助言する。 ・技能のポイントを理解させるために師範を示す。 ・学習の取り組みに対する賞賛・激励を積極的にする。
		○ 柔道の基本原理に基づいて、投げ技の連絡変化を身に付け、約束練習や自由練習を楽しむことができる。	・補助カードを活用することができる。	・投げ技の連絡変化を身に付けることができる。 大外刈りへの連絡変化 小内刈りへの連絡変化	・自由練習でのルールやマナーを守ることができる。	・柔道の基本原理に基づく、投げ技の連絡変化を身に付けるよう個別指導をする。
		○ 柔道の基本原理に基づいて、自分に合った新しい技(連絡変化)を発見し、約束練習や自由練習、簡易試合を楽しむことができる。	・互いの技能について、アドバイスすることができる。 ・アドバイスをもとに、新しい課題解決の方法を工夫することができる。	・技を掛けたり、投げられたりする中で、自分に合った新しい技(連絡変化)を発見し、身に付けることができる。	・技に対する研究心を持つことができる。	・新しい技のポイントや練習方法を理解させるために学習資料を活用させる。 ・正しい動きとの違いの理解と、課題解決の方法を工夫させるために、アドバイス学習を積極的に進めるよう助言する。
		○ 柔道の試合審判規定・審判の合図について理解し、得意技を身に付け、約束練習や自由練習、簡易試合を楽しむことができる。	・試合審判規定を理解し、審判をすることができる。	・相手との攻防の中で固め技や投げ技をかけることができる。 ・柔道の基本原理を理解して、タイミングよく技をかけ、得意技を身に付けることができる。 ・試合審判規定を理解し、審判の合図を身に付けることができる。	・仲間と協力し合う態度を身に付けることができる。 ・真剣に勝敗を競う態度を身に付けることができる。	・試合審判規定・審判の合図を理解させるために学習資料を活用させる。
15 16・17 18	学習 III	○ 勝つための戦術を考え、柔道大会(団体戦)を楽しむことができる。	・身に付けた技を試合で活用することができる。 ・身に付けた技を活用するための戦術を工夫することができる。	・相手の動きに応じた攻防の仕方を身に付け、試合に生かすことができる。	・自主的に大会を運営することができる。 ・試合でのルールやマナーを理解することができる。 ・勝敗に対する公正な態度と安全面への配慮ができる。	・勝つための戦術、技能に関する助言をする。 ・正しい動きとの違いの理解と、課題解決の方法を工夫させるために、アドバイス学習を積極的に進めるよう助言する。 ・自ら積極果敢に攻めるように助言する。

8 評価規準表

関：関心・意欲・態度 思：思考・判断 技：技能 知：知識、理解

時数	学習段階	ね ら い	評 価 規 準
1・2	オリエンテーション	○ 柔道の特性を知ることができる。 ○ 学習の進め方について理解し、学習の見通しを持つことができる。	関： 柔道の歴史や理念，特性を理解することで，柔道の楽しさや喜びを味わおうとする。 思： 自分に合った学び方や課題を知り，解決の方法の見通しを持つようとしている。 知： 柔道の歴史や理念，特性や意義を理解している。
	学 習 I	○ 自己の技能の程度を知り，能力に応じた目標を立てることができる。 ○ 体づくり運動の意義やねらい，基本動作，主運動との関連を理解し，行うことができる。	関： レディネステストに積極的に取り組もうとする。 思： 自分に合った課題を見つけ，目標を立てようとしている。 知： 自己の能力について理解することができる。 関： 体づくり運動についてのねらいを理解し，積極的に取り組もうとする。 思： 主運動に近づくための効果的な体づくり運動を，自分の状態に合わせてつくろうとしている。 知： 柔道の特性について理解し，その特性に近づくための体づくり運動，基本動作を知っている。
3 4・5 6 7・8 9 ⑩・⑪ 12 13・14	学 習 II	○ 柔道の基本原理を理解して，既習技を復習し，新しい投げ技を身に付け，約束練習や自由練習を楽しむことができる。	関： 既習技・新しい技を習得するために，積極的に技の練習に取り組もうとする。 思： 自分に合った課題を立て，練習（かかり練習，約束練習，自由練習）を工夫している。 技： 既習技を，タイミングよくかけることができる。 技： 新しい技を，タイミングよくかけることができる。 知： 既習技・新しい技の仕組みや構造を理解している。
		○ 柔道の基本原理を理解して，固め技の連絡変化を身に付け，約束練習や自由練習を楽しむことができる。	関： 固め技の連絡変化を習得するために，積極的に技の練習に取り組もうとする。 思： 自分に合った課題を立て，練習（かかり練習，約束練習，自由練習）を工夫している。 技： 固め技の連絡変化を，スムーズにかけることができる。 知： 固め技の連絡変化の仕組みや構造を理解している。
		○ 柔道の基本原理に基づいて，投げ技の連絡変化を身に付け，約束練習や自由練習を楽しむことができる。	関： 投げ技の連絡変化を身に付けるために，積極的に技の練習に取り組もうとする。 思： 自分に合った課題を立て，練習（かかり練習，約束練習，自由練習）を工夫している。 技： 投げ技の連絡変化を身に付けることができる。 知： 投げ技の連絡変化の仕組みや構造，合理的な連絡変化の仕方を理解している。
		○ 柔道の基本原理に基づいて，自分に合った新しい技（連絡変化）を発見し，約束練習や自由練習，簡易試合を楽しむことができる。	関： 新しい技（連絡変化）を積極的に発見し，身に付けようとする。 思： 柔道の基本原理を理解し，相手を崩したり投げたりする中で，自分に合った新しい技（連絡変化）を発見しようとしている。 技： 相手の動きに応じて，新しい技（連絡変化）を身に付けることができる。 知： 新しい技（連絡変化）の仕組みや構造，合理的な連絡変化の仕方を理解している。
		○ 柔道の試合審判規定・審判の合図について理解し，得意技を身に付け，約束練習や自由練習，簡易試合を楽しむことができる。	関： 得意技を見つけるために，積極的に技の練習に取り組もうとする。 思： 自分に合った課題を立て，練習（かかり練習，約束練習，自由練習）を工夫している。 技： 既習技のうちから，より自分に合った得意技を身に付けることができる。 知： 既習技・得意技の仕組みや構造を理解している。
15 16・17 18	学 習 III	○ 勝つための戦術を考え，柔道大会（団体戦）を楽しむことができる。	関： 相手の動き・技に対応した攻防や勝敗を競い合う柔道の楽しさ，喜びを味わおうとする。 思： 試合に勝つために，自分（たち）に合った試合の仕方（戦略・戦術）を工夫している。 技： 試合の中で，相手の動きや技に対応した攻防を展開することができる。 知： 礼儀作法，試合の運営やルール，審判の仕方について知っている。

9 本時の実際 (10・11/18)

(1) ねらい

- ① 連絡変化を身に付け、意欲的に取り組み、練習や試合を楽しむことができる。
- ② 自分の能力に応じた課題を設定し、解決の方法を工夫することができる。
- ③ 自分の技能の程度に応じた連絡変化を身に付け、相手の動きに対応した攻防を展開し、練習や試合に生かすことができる。
- ④ ルールや技能などの基礎的な知識や攻防の仕方の工夫を理解することができる。
- ⑤ 柔道場の安全を確かめ、自他の健康・安全に留意して運動に取り組むことができる。

(2) 本時の指導にあたって

1年時では、「投げ技に対して受け身をする」、「固め技を身に付ける」、「崩して技をかける」、「体をさばいて相手の動きや技に対応する」などのように、対人的技能と関連させて基本動作、固め技を中心に学習してきた。

2年時では、まず、学習段階における学習Ⅰにおいて、レディネステストによって自己の技能の程度を知るとともに、アドバイス学習のねらいや進め方を理解させた。次に、学習Ⅱにおいては、既習技のかかり練習に重点を置きながら崩しや体さばきを身に付けさせ、約束練習の中でタイミングよく技をかけられるように指導してきた。さらに、新しい投げ技、固め技を身に付けさせ、学習Ⅲにおいて、柔道大会（個人戦）を位置づけ、柔道の特性にふれさせてきた。

3年時では、生徒の実態調査から、主に、「柔道の特性に存分にふれていない」、「投げ技、崩しを身に付けたい」、「技の練習をしても上手にならないときに嫌だと感じている」という把握ができたので、授業全体（体づくり運動からまとめまで）を通して、まずは、柔道の特性に似た運動、いわゆる類似の運動の特性から徐々に味わわせ、後半に向けて、柔道の特性に存分にふれられるよう授業を進めていきたい。また、課題の解決を進めてもなかなか技能の向上がみられない生徒には、師範を示して、技のイメージを持たせるとともに、技能のポイントを的確に押さえて、積極的に個に応じた指導を進めていきたい。

本授業においては、はじめに、体づくり運動で、類似の運動（押し合い引き合い相撲、ロープ相撲など）、基本動作（引きつけ運動、横受け身、後ろ受け身、前回り受け身）を取り入れ、心と体を開放させ、徐々に主運動に近づけていきたい。また、既習技については、技のVTRを活用して、投げ技や固め技のイメージを再確認させる。次に、技能の定着が不十分な生徒には、師範を示し、技能のポイントを的確に押さえていきたい。

授業の展開においては、自分に合った技（連絡変化）をつくり、身に付けることで、より柔道の特性にふれさせたい。この時に、アドバイス学習を通して、学習資料や教具（技のVTR・足型）などを活用させ、パートナーが運動している人に気付いた点をアドバイスしたり、運動している人がパートナーに意見交換を求めたりして試行錯誤することは、生徒の思考・判断の力を育成することにつながると考えている。本授業ではここを重点的に指導していきたい。

そして、授業の後半においては、簡易試合（団体戦）を通して、身に付けてきた技能を存分に発揮させ、柔道の特性にふれさせたい。また、相手を尊重する態度ができてきているか、積極果敢に攻める態度ができてきているか確認し、相手の特性に合わせた攻防の仕方については、積極的に指導していきたい。

さらに、試合に関しては、真剣に勝敗を競う態度を身に付けさせたい。

まとめの段階においては、自分の活動を振り返り、グループ活動の中で「今日の最優秀選手」を選出させ、推薦理由をあげることで互いの良い点を認め合い、自己・相互評価能力の育成にも役立たせていきたい。

(3) 学習過程

過程	時間	学 習 活 動	教師の支援活動と留意点
準備運動 健康観察 目標確認	20分	1 体づくり運動をする。 ・類似の運動, 基本動作など ・押し合い引き合い相撲など ・横受け身, 後ろ受け身, 前回り受け身など 2 あいさつ・健康観察をする。 3 本時のねらい・学習の流れについて確認する。 柔道の基本原理に基づいて, 自分に合った新しい技(連絡変化)を発見し, 約束練習や自由練習, 簡易試合を楽しもう。	・柔道場が安全であるか確認する。 ・柔道の特性に触れながら, 主運動に近づけるための体づくり運動を取り入れる。 ・声を掛け合って, 柔道を大いに楽しめる雰囲気をつくるよう助言する。 ・欠席者, 見学者を把握し, 生徒一人一人の健康状態を確認する。 ・本時の学習のねらいを理解させる。 ・学習ノートに本時の学習の流れを記入し, 理解させ, 学習の見通しを持たせる。
課題追求	20分	4 「既習技」のかかり練習, 約束練習, 自由練習をする。 ・固め技の自由練習 1分×3本 ・投げ技のかかり練習 50本 ・投げ技の約束練習 10本 ・投げ技の自由練習 1分×3本	・既習技のイメージを再確認させるために, 技のVTRを活用する。 ・師範を示し, 技能のポイントを的確に指導する。 ・技能のポイントを把握し, 観察して分かった動きを言葉と動作で伝えることができているか確認し, 指導する。 ・積極的に攻防するように助言し, 良い動きに対しては賞賛・激励をする。
診断 ・ 思考 ・ 練習 ・ 定着	30分	5 自分に合った技(連絡変化)をつくる。 アドバイス学習 ① 「連絡変化」の師範を見る。 ② 補助カードに「連絡変化」の技能のポイントを学習資料・教具を使って, パートナーと確認しながら記入する。 ③ 動きながら, 補助カードや学習資料・教具を使って技能のポイントを再確認する。 ④ かかり練習をする。 ⑤ 約束練習をする。	・大きな動きの連絡変化(自分の体型に合わせた連絡変化, 得意技への連絡変化, 相手の動きに合わせた連絡変化)を師範し, イメージとして捉えさせる。 ・柔道の基本原理を考えながら, 連絡変化をつくらせる。 ・自分の体型や得意技に合った連絡変化をつくらせる。 ・相手の動きに合わせた連絡変化をつくらせる。 ・声を掛け合って, 柔道を大いに楽しめる雰囲気をつくるよう助言する。 ・的確にアドバイス学習ができているか確認し, 指導する。 ・補助カードに記入したことが, アドバイスの視点であることを理解させる。 ・お互いで, 必要に応じて適切なアドバイスをするように指導する。 ・運動している人が, パートナーに対して観察して欲しい内容を上手く伝えているか確認し, 指導する。 ・パートナーが, 運動している人に対して的確な助言ができているか確認し, 指導する。
評価	(5分) 20分	6 連絡変化を生かした自由練習をする。 7 休息をする。 柔道大会(団体戦)をする。 ・試合時間2分 ・各チーム2試合	・積極果敢に攻めるように助言し, 良い動きに対しては, 積極的に賞賛・激励を行う。 ・試合の準備をさせる。 ・相手を尊重する態度(礼法)ができているか確認し, 指導する。 ・技能のできばえについての賞賛・激励を積極的に行う。 ・相手の特性に合わせた攻防の仕方がうまくできているか確認し, 指導する。
整理運動 評価・反省	10分	8 整理運動をする。 9 評価・反省をする	・体をほぐしながらランニングをさせる。 ・自己評価や相互評価を通して, 自己の変容に気づき, 自他のよさを認め合えるようにする。 ・各チームの反省をさせる。
あいさつ 後始末		10 次時の課題・学習内容の確認をする。 11 健康観察, あいさつ, 後始末をする。	・課題達成度を確認し, 賞賛・激励をする。 ・健康状態と後始末の確認をする。

(4) 評価

- ① 連絡変化を身に付け, 意欲的に取り組み, 試合や練習を楽しむことができたか。
- ② 自分の能力に応じた課題を設定し, 解決の方法を工夫することができたか。
- ③ 自分の技能の程度に応じた連絡変化を身に付け, 相手の動きに対応した攻防を展開し, 試合や練習に生かすことができたか。
- ④ ルールや技能などの基礎的な知識や攻防の仕方の工夫を理解することができたか。
- ⑤ 柔道場の安全を確かめ, 自他の健康・安全に留意して運動に取り組むことができたか。